No.10

評 様式10

課題対応取組報告書 【共通】

名称	淀川区西部地域包括支援センター
提出日	令和 8 年 6 月 2 日

カテゴリー（※主なものをひとつチェック）				
	☑	地域や専門職とのつながり等	☐	社会資源の創設（居場所づくり等）
	☐	認知症高齢者等の支援	☐	自立支援・介護予防・健康づくり等
	☐	その他（ ）		

活動テーマ	「つながり」を広げ、身近な相談窓口を目指して！
地域ケア会議から見えてきた課題	令和7年度の地域ケア会議では、金銭管理の問題をきっかけに、認知症・精神疾患、親子関係の破綻、独居やセルフネグレクトなど、複合的な課題を抱えるケースが多いことが分かった。地域とのつながりが薄く支援を拒否することもあり、適切な支援につながるまで長期的な関わりが必要となっている。 課題抽出会議では「交通・移動関連」「買い物・生活環境」「医療・介護関連」「独居高齢者」「認知症」「親子で障がい・精神疾患」「ヤングケアラー」「オレオレ詐欺」が地域課題として挙げられた。
対象	地域の高齢者やその家族、地域に関係するすべての機関・事業所・関係者
地域特性	圏域は区北西部にあり、神崎川・JR福知山線・阪急神戸線に囲まれた、古くからの住宅街と工場が混在する地域である。加島駅開業後にマンションや家族世帯も増えたが、高齢化率は区内でも高く、市営住宅も多い。また、商店街の衰退やスーパーまでの距離に加え、交通手段が単線のバス中心でタクシー乗り場もなく、生活インフラ面の課題が大きい。
活動目標	①高齢者等の相談を受け、適切な制度・機関につなぎ、継続してフォローする。 ②関係者との連携を維持し、新たな機関ともつながって地域のネットワークを強化する。 ③関係機関と協働し、イベント等で啓発・周知を進める。 ④世代を問わず、地域の認知症理解を深める。 ⑤居宅介護支援専門員への実務的な後方支援を行う。
活動内容（具体的取組）	・加島・三津屋の会館で介護予防・認知症予防教室を各10回（計20回）開催した。 ・百歳体操、ふれあい喫茶、地域サークル等に参加し、周知と「気になる高齢者」の情報収集を行い、顔の見える関係づくりを継続した。 ・民生委員・児童委員定例会に毎回参加し、活動報告や相談状況、消費者被害情報を共有して連携を強化した。 ・初期集中支援チーム等で推進チームを結成し、スーパーやサロンでイベント・相談会を実施した。 ・関係者会議を開催し、課題の共有と地域課題の「自分ごと化」を進め、ネットワークを構築した。 ・ちらし・パンフの配架先を拡大し、新たな地域とも連携して周知機会を広げた。 ・委託先のケアプラン等の帳票を点検し、未提出・不備を整理した。
成果（根拠となる資料等があれば添付すること）	・関係機関と会議・イベントを通じて連携を深め、チーム力の強化と幅広い支援につながった。 ・課題抽出・地域連携会議を初めて参集形式で開催し、顔の見える関係づくりと地域課題の共通認識ができた。 ・毎日の朝礼・終礼で状況共有と意見交換を行い、職員間の連携が強まり、柔軟なケース対応ができている。 ・出張講座や研修、チラシ配架先の拡大により、周知の機会が増えた。 ・委託先へケアプラン作成のポイントを明確に伝え、介護支援専門員の後方支援につながった。
今後の課題	・必要な人が適切な支援につながり、地域で安心して暮らし続けられるよう、関係機関との連携を強化し、包括の周知と職員のスキル向上を進める。 ・相談会・イベントの開催場所に偏りがあり、地域の各所で実施し、身近に相談できる窓口があることを広く周知する。 ・これまでの有効な取組をマンネリ化させず継続できるよう、実施体制や環境を整える。 ・認知症・虐待・権利擁護に関する視点を強化し、包括職員の気づき（アンテナ）を高める。 ・委託事業所のケアマネの業務効率化と適切なケアマネジメントに向け、後方支援を強化する。

※以下は、区運営協議会事務局にて記入

区地域包括支援センター運営協議会開催日	令和8年7月8日（水）
専門性等の該当（※該当個数は問わない）	☑ 地域性 ☑ 継続性 ☑ 浸透性・拡張性 ☑ 専門性 ☑ 独自性
評価できる項目（特性）についてのコメント＊今後の取組継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。	百歳体操などの地域イベントをきっかけに、地域住民との「顔つなぎ」を継続できています。また、課題抽出・地域連携会議を初めて参集形式で開催し、顔の見える関係づくりを進めるとともに、地域課題の共通認識を形成できました。さらに、パンフレット等の周知物の配架先が増え、これまで実施できていなかった加島地域でも出前講座を行えるようになっています。関係機関との会議やイベントを通じて連携を深めた結果、チーム力の強化と、より幅広い支援につながりました。